德實錄に、齊衡二年閏四月丁酉、分二美濃國多藝武義兩郡一爲二多藝、石津、武義、郡上、凡四郡一とあるが、當郡のはじめにて、延喜民部式拾芥抄等に郡上とかき、和名類聚抄には郡上とかけり、○中略高二萬九千九百三十三石一斗五升一勺、百六十九ヶ村、古高帳には、二萬六千七百六石、百五十二ヶ村とし、新高帳には、百七十四ヶ村とす、

〔文德實錄七〕齊衡二年閏四月丁酉、分二美濃國多藝武義兩郡一爲二多藝石津武義郡。上凡四郡一、

〔鎌倉大草紙下〕京都に大亂起り、常緣が美濃國郡上の城を、山名方より打入て、應仁二年九月六日に攻落され、同國住人齋藤持是院法印妙椿と云人悉押領しける、

賀茂郡

〔新撰美濃志一美濃二十一郡〕加茂郡は、武儀郡の東南にありて、丑寅より未申へ長き地なり、東は惠奈郡にさかひ、南は木曾川を隔てゝ、土岐、可兒の二郡に隣り、西は各務郡に至り、北は武儀郡、北東にて飛驒國益田郡に亘れり、和名類聚抄に賀茂と見え、其外の古書どもにみなゑかかきて、外に書きたる文字なし、賀を略して加文字かけるも、たまゝにはあれど、まづは例すくなし、○中略高四萬三千五百石一斗六勺、百二十八ヶ村、古高帳には、四萬二千六百一石餘とし、新高帳には、百四十二ヶ村とす、

〔東大寺正倉院文書東南院伍櫃十一〕美濃國司解　申進上交易賤事

合陸人奴三婢三

價稻肆仟玖伯束二人充各一千束一人七百束　二人各八百束一人六百束○中略

奴益羽年十五右目下黑子　價稻漆伯束

右加茂郡小山鄉戶主上連稻實之賤○中略

天平勝寶二年四月廿二日○署名略

可兒郡

〔郡名考、美濃　可兒カコ　カニ

〔新撰美濃志一美濃二十一郡〕可兒郡は、木曾川を隔てゝ、加茂郡の南にあり、東南は土岐郡に至り、南は尾張國春日井郡に亘り、西は同國丹羽郡に隣り、北は加茂郡を堺とす、北の方にて東山道の驛